

「臨牀消化器内科」＜特集：CT colonography—今日までの進歩と現状，そして大腸がん検診への展開＞を皆様のお手許にお届けする．現在のわが国では社会構造・生活習慣の欧米化に伴って大腸癌，炎症性腸疾患（IBD）などの腸疾患の顕著な増加が招来されており，このような疾患構造変化を背景に，近年解像度が顕著に向上したCTを用いた腸管診断，すなわち，CT colonography（CTC）が注目を集めている．CTCはMDCT（multi-detector CT）による画像情報の増加，陰性造影剤によるタギング技術や画像解析ソフト開発により可能となった検査法である．本特集の記事でもおわかりのように，欧米においてCTCは大腸腫瘍に対する検診・検査法として検討されてきたのに対し，本邦ではおもに血管構築を含めた大腸癌術前ナビゲーション検査として普及してきたが，2017年に二つの国内大規模臨床試験が行われた結果，大腸腫瘍診断法として感度85～90%，特異度91～93%と良好な精度が報告され，内視鏡検査に対する非劣性が証明された．巻頭言で永田浩一先生が述べておられるとおり，日欧米のエビデンスが揃い，CTCは大腸内視鏡を補完する立場を確立しつつあり，今後，精検受診率が低迷する大腸がん検診におけるoptionとしての展開が期待されるところである．

今，新たな風が吹き始めている，読者の先生方はわが国の大腸がん検診が新たなステージを迎えていることをお感じになられることと思う．この大きな目標に向かい学会によるCTCの実施状況，偶発症に関する全国調査も行われている．もちろん，表面型大腸病変に対する感度が低いことや読影医を含めた読影体制が未整備であること，そして，検診導入のうえでは，CTCの標準化，安全管理体制の整備など重要な課題が山積している．本特集に貴重な記事をお寄せくださった執筆者の先生方，わが国のCTCの向上にご尽力されてこられた先生方の今後のご活躍に衷心からのエールをお送りする次第である．

（一瀬雅夫）

臨牀 消化器内科[®] Vol. 34 No. 3

©2019年2月20日発行

定価（本体3,000円＋税）

年間予約購読は前金にて書店あるいは弊社宛お申し込み下さい．ただし，年間購読料は年度により異なりますので，書店または弊社までお問い合わせ下さい．

発行人 増 永 和 也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-64 神保町協和ビル

営業直通電話（03）3291-3901（代）FAX（03）3291-3904

e-mail info@nmckk.co.jp

編集直通電話（03）3291-3971（代）FAX（03）3291-3377

e-mail gastro@nmckk.co.jp

郵便振替 00110-2-80695

印刷所 三報社印刷株式会社

・ Published by Nihon Medical Center, Inc. ©2019, Printed in Japan

・ 本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は（株）日本メディカルセンターが保有します．

・ **JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版者＞

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き，禁じられています．複製される場合は，そのつど事前に出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088，FAX 03-5244-5089，e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください．

■ 広告申込所／日本医学広告社

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-12-8 電話 03-5226-2791